2023　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	日本語学科(昼間部1年制)		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	日本事情(上級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	20　(1)　時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	501教室
担 当 教 員	中村　絵	実務経験とその関連資格	2013年3月に大学にて日本語教員養成課程を修了。その後、Universidad Espiritu Santo(エクアドル)において2年間、日本語を教えた。帰国後、大阪府立桃谷高等学校III部で半年間、英語を教えるかたわら外国籍の学生に対して日本語を教えていた。			

《授業科目における学習内容》

グループで話し合い、次週までに担当を決め、それをまとめて調べ発表する。学生自らが気づき、動けるような取り組みを行う。最終目標は卒業研究課題研究発表会での発表を目指す。

《成績評価の方法と基準》

a. 素点(定期試験):70%
b. 出席評価点　　:20%
c. 平常評価点　　:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

生教材、新聞、その他の資料(先輩の卒研の論文やアンケート資料)など

《授業外における学習方法》

普段の生活の中から、母国との違いを見つけたり、社会の課題について考える。

《履修に当たっての留意点》

グループで話し合い、みんなで協力して意見をまとめましょう。自ら気づき、動く力をつけてください。
最終目標は卒業研究課題研究発表会での発表です。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	留学生が地域活動でできることを考えよう(1)	使用教材から適宜抜粋	次週までにグループで話し合い、資料を集める。
		各コマにおける授業予定	前期で参加した活動を踏まえ、自分たちでできる取り組みを考える。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	留学生が地域活動でできることを考えよう(2)	使用教材から適宜抜粋	次週までにグループで話し合い、資料を集める。
		各コマにおける授業予定	前期で参加した活動を踏まえ、自分たちでできる取り組みを考える。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	防災時、私たちができることを考えよう(1)	使用教材から適宜抜粋	次週までにグループで話し合い、資料を集める。
		各コマにおける授業予定	前期で参加した活動を踏まえ、自分たちでできる取り組みを考える。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	防災時、私たちができることを考えよう(2)	使用教材から適宜抜粋	次週までにグループで話し合い、資料を集める。
		各コマにおける授業予定	前期で参加した活動を踏まえ、自分たちでできる取り組みを考える。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	少子高齢化社会	使用教材から適宜抜粋	次週までにグループで話し合い、資料を集める。
		各コマにおける授業予定	前期で参加した活動を踏まえ、自分たちでできる取り組みを考える。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	卒研(1)	使用教材から適宜抜粋	次週までにグループで話し合い、資料を集める。
		各コマにおける授業予定	卒研発表について考える。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	卒研(2)	使用教材から適宜抜粋	次週までにグループで話し合い、資料を集める。
		各コマにおける授業予定	卒研発表について考える。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	卒研(3)	使用教材から適宜抜粋	次週までにグループで話し合い、資料を集める。
		各コマにおける授業予定	卒研発表について考える。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	卒研(4)	使用教材から適宜抜粋	次週までにグループで話し合い、資料を集める。
		各コマにおける授業予定	卒研発表について考える。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	卒研(5)	使用教材から適宜抜粋	次週までにグループで話し合い、資料を集める。
		各コマにおける授業予定	卒研発表について考える。		